

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成26年12月25日(2014.12.25)

【公開番号】特開2013-108572(P2013-108572A)

【公開日】平成25年6月6日(2013.6.6)

【年通号数】公開・登録公報2013-028

【出願番号】特願2011-254642(P2011-254642)

【国際特許分類】

**F 1 6 H 13/08 (2006.01)**

【F I】

F 1 6 H 13/08 H

【手続補正書】

【提出日】平成26年11月6日(2014.11.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

前記入力軸 2 b は、前記減速機ケースの他端側壁部（図示せず）の内側に、入力側転がり軸受ユニット 3 3 と入力側シーリングユニット 3 4 とにより、油密を保持した状態で、回転自在に支持している。そして、前記入力軸 2 b の先端部に、前記太陽ローラ 4 b を設けて、この入力軸 2 b によりこの太陽ローラ 4 b を回転駆動するようにしている。この太陽ローラ 4 b は、前述の図 1 2 ~ 1 3 に示した先発明構造の場合と同様に、互に対称な形状を有する 1 対の太陽ローラ素子 8 d、8 d から成り、前記入力軸 2 b の前半部（図 1 の左半部）に設けた小径部 3 5 の周囲に配置している。又、これら両太陽ローラ素子 8 d、8 d と前記入力軸 2 b との間にそれぞれローディングカム装置 7 b、7 b を設け、これら両太陽ローラ素子 8 d、8 d を互いに近付く方向に押圧しつつ、これら両太陽ローラ素子 8 d、8 d を前記入力軸 2 b により回転駆動するようにしている。即ち、前記両ローディングカム装置 7 b、7 b を構成するカム板 1 5 b、1 5 b をそれぞれ前記小径部 3 5 に対し絞り嵌め外嵌固定して、前記入力軸 2 b と共に回転するようにしている。又、前記両カム板 1 5 b、1 5 b の互いに反対側面を、前記小径部 3 5 と、前記入力軸 2 b の基半部（図 1 ~ 2 の右半部）に設けた大径部 3 6 との間に形成した鏝部 3 7、又は、この入力軸 2 b の先端部に螺合固定したローディングナット 3 8 にそれぞれ突き当てている。そして、互に対向する、前記両太陽ローラ素子 8 d、8 d の基端面と前記両カム板 1 5 b、1 5 b の片側面との、それぞれ円周方向複数箇所ずつに、前述の図 1 2 ~ 1 3 に示した先発明構造の場合と同様に、被駆動側カム面 1 7、1 7 と駆動側カム面 1 8、1 8 とを設け、これら各カム面 1 7、1 8 同士の間それぞれ玉 1 6、1 6 を挟持している。尚、前記両ローディングカム装置 7 b、7 b には、それぞれ複数ずつの被駆動側、駆動側各カム面及び玉に加えて、予圧付与の為のばねを設けている。このばねは、前記両カム板 1 5 b、1 5 b と前記両太陽ローラ素子 8 d、8 d とを相対回転する方向に押圧し、前記各玉 1 6、1 6 を前記各カム面 1 7、1 8 の浅い側に移動させる。この部分の構造に関しては、本発明の要旨とは関係しないし、別の構造を採用する事もできる。